専大スポーツ
No.337
大会結果、予定は体育会ホームページ（専大ホームページ「スポーツ」からアクセス）でご確認ください
専大スポーツ編集部 web(http://sensupo.com/)でも大会結果を配信しています

サッカー・関東大学リーグ戦

4連覇へ好発進

駒大に快勝 6－0

▲ 中盤を活性化させ、２ゴール１アシストの北出＝撮影・石川

関東大学サッカーリーグ戦が4月5日に開幕。専大は駒大と対戦し（味の素フィールド西が丘）、6－0と大勝した。

前半は源平貴久監督も「硬かった」と振り返ったように、ロングボールが多く、持ち前のショートパスで崩すサッカーができない。しかし、前半27分、右サイドでボールを持った仲川輝人（商4・日体荏原高）が北爪健吾（法4・前橋育英高）との連係で崩すと、北出雄星（経済3・日大鶴ケ丘高）とのパス交換から、左足でシュート。鮮やかにゴールネットを揺らし、専大が先制。直後にも、山川翔也（経営3・新潟西高）が追加点を奪い、2－0で折り返した。

後半は自慢の攻撃力を遺憾なく発揮。北出の2ゴールなどで4点を重ねた。

河津良一主将（文4・岡山県作陽高）は「硬さはあったが、無失点で勝つことができて良かった。今年は選手一人ひとりの意識が変わり、チーム全体にプラスになっている」と語った。4連覇を目指す専大サッカー部から今年も目が離せない。

＝◇＝

デンソーカップチャレンジサッカー西都市大会（2月28日～3月2日、宮崎県西都市清水台総合公園）に専大から8人が出場した。

▽全日本大学選抜＝福島春樹（法2・静岡学園高）／萩間大樹（経済2・瀬谷高）／小口大貴（経済1・生田東高）

▽関東選抜A＝北爪健吾／仲川輝人／星野有亮（経済3・静岡学園高）／前澤甲気（経営3・清水商高）

▽関東選抜B＝河津良一主将

大会は全日本大学選抜が無失点で優勝。GKとして堅守を支えた福島が大会MVP、萩間がベストイレブンに輝いた。

福島は「自分一人ではなくチーム全体の守備意識の高さが評価されたと思っている」と話した。

▲ 全日本大学選抜でキャプテンを務め、好守を見せた福島＝撮影・石川

福島が優秀選手
大学日韓定期戦

3月29日に等々力陸上競技場で大学日韓定期戦が行われ、専大から北爪、仲川、萩間、福島が出場。試合は前半28分の仲川のPKを皮切りに全日本大学選抜が6－0で大勝した。優秀選手にはこの試合も無失点で守り抜いた福島が選出された。

2得点の仲川は「自分で積極的に仕掛けた結果が2本のPKだと思う」と、試合を振り返り「リーグ戦でもこの調子で得点王を目指していく」と意気込みを語った。

（鷲尾凌平・経済2）

スピードスケート・Jrワールドカップ

近藤 1500メートルで優勝 1000メートルは3位

スピードスケートのジュニアワールドカップ（3月1、2日、ノルウェー・ビュグン）で近藤太郎（経営1・駒大附苫小牧高）が男子1500㍍で優勝し、同1000㍍で3位。小川翔也（文1・池田高）が同3000㍍で8位に入賞した。

五輪直後の大会となった近藤だが、「リラックスして臨むことができた。目の前にあることをただこなすのではなく、何をすればよいかを考えることができた」と意識の変化について語り、「国内では負けなしの力のある選手になりたい」と目標を掲げた。近藤は、世界ジュニア選手権（3月7～9日、ノルウェー・ビュグン）にも日本代表として出場し、1000㍍で3位に入賞した。

＝◇＝

オリンピックオーバル国際競技会（3月13～16日、カナダ・カルガリー）で、土屋良輔（経営1・嬬恋高）が男子1万㍍と5000㍍の2種目で2位となった。

土屋は「楽しんで滑れた。今の力を出せたと思う」と振り返った。

（岡野希春・経済2）

卓球・東京選手権 女子単 鈴木が4強

◀ 好調を維持する鈴木

東京卓球選手権（3月12日～16日、東京体育館）の女子シングルスで鈴木李茄（商1・青森山田高）がベスト4入りを果たした。

危なげなく予選を勝ち進むと、決勝トーナメントでも得意のバックハンドドライブが次々と決まった。惜しくも準決勝で専大OGの高瑜摇（平23商＝十六銀行）に1－4で敗れたものの、ユニバーシアード金メダルの実力を見せた。

また男子シングルスで、王凱（商3・新潟産大附高）がベスト8に入った。

（阿部理志・文2＝写真も）

レスリング・ブルガリア国際大会

フリー60kg 中村が準優勝

3月23日、ブルガリアで行われたペトコ・シラコフ&イワン・イリエフ国際大会のフリースタイル60kg級で中村倫也（商1・花咲徳栄高）が準優勝に輝いた。

メダルポテンシャルアスリート育成システム構築事業の一環で、中村は男子ジュニア世代に選抜され、今大会に出場した。

準決勝までテクニカルフォール勝ちするも、決勝戦でロシア選手に2－8で敗れた。「1階級上（本来は55kg級）のパワーにけおされ、自分の形に持っていけなかった」と敗因を分析した。

「今年度はJOCカップで優勝し、全日本で3位以上の成績をとることが目標」と中村。海外で培ったものを発揮し、更なる飛躍を願う。

（小川史緒梨・文3）

◀ 決勝でロシア選手と対戦する中村（左）＝㈶日本レスリング協会提供

新入生歓迎会

3月27日、生田キャンパスで体育会新入生歓迎会が行われ、強化部の新1年次生を対象に講演会や学部別ガイダンスが行われた。

石崎徹体育部長は「大学へ入学したのはなぜかを考え、勉学をおろそかにせず、文武両道に励んでほしい」と激励した。

ラグビー部の村田亙監督（平2文）が「私のラグビー人生」と題して講演。多くの挫折を味わうもラグビーへの情熱や専大への思い、勝利への強い気持ちで何度も立ち上がり続けた自身の経験を話した。

（小川）

記録コーナー

◇スキー部

▽宮様国際競技会（3月7、8日、札幌市）【少年男子10kmクラシカル】石川謙太郎（経営2・旭川大高）＝優勝【同15kmフリー】石川＝優勝

◇馬術部

▽東京八大学純馬術競技会（3月28～31日、JRA馬事公苑）【総合馬場馬術団体】優勝【同個人】見目瑛（経営2・宇都宮白楊高）＝2位、二川祥（商2・宝塚高）＝3位

3月31日までの記事については旧学年で表記しています。

専Sation 第11号発行

1部復帰のテニス部を特集

3月14日に発行された「専Sation」第11号「伝統」。今号では19年ぶりに悲願の1部復帰を果たした男子テニス部を含むテニス部特集や、3年ぶりに出場した箱根駅伝を振り返った「復活の序章」のほか、専スポ部員独自の視点からサッカー部の強さを分析した「百聞は一見に如かず」など内容は盛りだくさん。

ぜひ一読してみてください。

専スポ編集部員募集

体育会本部情宣局編集部（専大スポーツ編集部）は現在、2、3年次生合わせて25人で活動しています。

私たち専スポは「体育会の一番のファンであること」をモットーに活動しています。主な活動は毎月発行される「専大スポーツ」紙面の作成、年に2度発行しているフリーペーパー「専Sation」の製作、Web記事の作成です。

「スポーツを見るのが好き」「記事を書いてみたい」「大学に入って何かを成し遂げたい」など理由は何でも構いません。あなたも私たちとともに専大スポーツ編集部で専大体育会の魅力を伝えていきませんか？

やる気・熱意のある方は、第一学生自治会館2階の部室までお越しください。

（湯澤時生・人間科学3）

体育会の魅力を伝えよう